

早わかり！単元計画の作成手順

～小学校 体育 第3学年
ゴール型ゲーム「タグラグビー」を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 指導すべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
- (1)は、知識及び技能です。(2)は、思考力、判断力、表現力等です。(3)は、学びに向かう力、人間性等です。



ゲームについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 次の運動の楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすること。 ア ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすること。	(2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。	(3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 上記の指導内容をもとに、必要な記述を抜き出して単元の目標を設定します。
- (1)が知識及び技能。(2)が思考力、判断力、表現力等。(3)学びに向かう力、人間性等です。
- 単元の目標の語尾は、「～することができるようにする」と表記します。



- (1) ゴール型ゲーム（タグラグビー）の行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たない動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

体育では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識の文末を「～している」、技能の文末を「～できる」として、評価規準を作成する。	・文末を「～している」として、評価規準を作成する。	・安全の文末を「～している」、安全以外の文末を「～しようとしている」として、評価規準を作成する。

指導内容の例示を確認しながら、フォーマットに則って設定します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① タグラグビーの行い方について、言ったり書いたりしている。 ② ボールを持ったときにゴールに体を向けることができる。 ③ 味方にボールを手渡したり、パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりすることができる。	① 攻めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。 ② ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。 ③ パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりするときの工夫を友達に伝えている。	① ゲームに進んで取り組もうとしている。 ② 規則を守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ③ 用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④ ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤ 友達の考えを認めようとしている。 ⑥ 場や用具の安全を確かめている。

○上表には、12この評価規準があります。次に、この12こを単元の指導計画に従って分配していきます。



4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全8時間の中で、何時間目にどの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか計画を立てます。
- 1時間に行う評価の数は、1～2つに設定します。2つ評価する場合は、評価方法を別にするのが有効です。



単元の指導計画(例) 小学校3学年体育 ゴール型ゲーム「タグラグビー」

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
ねらい	学習の進め方の見直しをもつ。	基本的なボール操作を身に付け、ルールを覚えて取り組む。			チームに合った簡単な作戦を選んで取り組む。			タグラグビー大会
学習活動	1 学習内容と本時のねらいの確認 ・1時間の流れと・規則を確認。 2 試しのゲーム ・作戦を選び、役割分担を行う。 3 整理運動・振り返り・片付け	1 用具や場の準備、準備運動 2 本時のねらいの確認 3 補強運動 ・基本的なボール操作を身に付ける。 4 ゲーム① ※全て易しいゲーム ・ゲームのルールを覚える。 5 チームの話合い及びチーム練習 6 ゲーム② ・話し合ったことを実行したり、ルールを意識したりして取り組む。 7 整理運動・振り返り・片付け ・チームの工夫やよさについて発表したり、学習カードに記入したりする場を設ける。			1 用具や場の準備、準備運動 2 本時のねらいの確認 3 補強運動 ・チームで作戦の動きを確認する。 4 ゲーム① ・作戦を選んでゲームをする。 5 チームの話合い及びチーム練習 6 ゲーム② ・話し合ったことを実行したり、作戦を振り返ったりして取り組む。 7 整理運動・振り返り・片付け ・チームの工夫やよさについて発表したり、学習カードに記入したりする場を設ける。			1 用具や場の準備、準備運動 2 本時のねらいの確認 3 タグラグビー大会 4 整理運動・振り返り・片付け
評価の重点	知	① (カード)		② (観察)	③ (観察・ICT)			
	思		① (カード)			② (カード)	③ (観察・ICT)	
	態	① (観察)	⑥ (観察)	② (観察)	③ (カード)	⑤ (カード)		④ (観察)

※知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

5. 本時の評価規準をもとに、「十分満足できる状況」や「努力を要する状況」を想定する

【単元の評価計画にある第5時の評価規準(知識・技能)】 = 【具体的にした第5時の評価規準】

味方にボールを手渡したり、パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりすることができる。

体育は、具体的にしたものを単元の評価規準として設定しているので、基本的に再設定は行いません。



A児
「味方が捕りやすいパスをしたり、トライしたりを何度も繰り返すことができる。」

「十分満足できる状況」と評価

B児
「味方にボールをパスしたり、トライしたりすることができる。」

「おおむね満足できる状況」と評価
(評価規準)

C児
「ボールを誰もいないところに放り投げたり、トライしたりすることができていない。」

「努力を要する状況」と評価



○評価規準を設定する場合、指導内容の例示を参考にします。子どもの実態を把握し、どのレベルを評価規準(B)とするかが大切です。OC児は、タグラグビーの基本的なボール操作(パスを出す、パスをもらう、トライする)等ができていません。だから、適切な支援が必要となります。

仲間を見てからボールの手渡しやパスをしたり、ボールを持つ人のすぐ後ろについてももらったりするような声かけ・練習の支援を行う。